

爆笑王

登場人物 吉田

木村

鈴木

大家さん

駅前にあるボロアパートの一室。

二人の男が今日ここに引越して来た。

乱雑に積み上げられた段ボール箱とテレビが一つ。

曲が流れ暗転幕が上がる。

外は快晴。真夏の深い青。

テレビだけが付いている。

曲が徐々に消えて行くと、テレビに映っているバラエティ番組の笑い声が聞こえてくる。

天井から吊るされた裸電球がぼんやりと光っている。

吉田と木村の二人がひどく映りの悪いテレビを睨み付ける様に見える。

鈴木が段ボール箱を持って入って来た。

鈴木 え？！…なんでテレビ見てるの？

吉田 やつぱり良いなあ、ドリフは。

鈴木 いやいや、まだ荷物あるんだけど。

木村 なんだか虚しくなってきたなあって話してた訳よ。

鈴木 は？

木村 うん。

鈴木 何が？

木村 よしだあ、お前から言ってくれ。

吉田 お前から言えよ、木村。

木村 いやいや、お前が言ってくれよ。

吉田 こういうのはお前の方が得意じゃん。

木村 いや、俺A型だし。お前から言ってくれ。

吉田 いやいや、お前の方が向いてるよ、だってお前リーダーじゃん。

木村 え？俺リーダーなの？

吉田 そうだよ、リーダー。

木村 いつ決まったの？

吉田 細かい事気にするなよ、リーダー。

木村 (嬉しそうに) A型だもん。

吉田 (鈴木に) な。

鈴木 だから何の話なの。

木村 ああ、忘れてくれ。

鈴木 はあ？

木村 なんだかやる気が湧いて来た。

吉田 よし、じゃあやろうか。

吉田と木村、立ち上がるようにする。

鈴木 ちよつと待って。なんかめっちゃくちゃ気になるんだけど。

吉田 ほら、だからお前から言えって言ったじゃんか。

木村 でも、せっかくこうしてやる気が湧いてきたところだしなあ。水を差すのも悪いし。

吉田 そうだなあ、せっかくやる気が湧いてきたんだしな。

吉田と木村、座り直す。

鈴木 全然そのやる気が伝わって来ないんだけど。

吉田 あら、そお？

木村 そうなのか…。

鈴木 だからなんなの、言えよ！

木村 言っちゃるか。

吉田 言っちゃるか？

木村 うーん…。

鈴木 言えつうの！なにもう、くじくじくじ、女みたいに。

木村 じゃあまあ、お前にそこまで言われたら、言っしかないけどさあ、俺達幾つになった？

鈴木 30。

木村 30にもなつてさあ、定職にも付かずにさあ、こうやって三人集まつてお笑いトリオ作つてはみたけどさあ、この先その、なんだ、明日をも知れずさあ、なあ？

吉田 そもそも俺達に才能なんて、そんなのよくわかんないじゃん。そんなよおわからんものを信じてだよ、いつまでも続けていて良いものだろうか、この先40にもなつてこんな生活していいのだろうかと思ひ悩んだつてもう遅い訳よ40になつちやたら。だつたら今30のうち、きつぱりやめるならやめる、続けるなら続けるで、失敗したつて後悔しないような決意というかさ、そういう、な。

木村 俺だつて諦めたくはないんだよ、お笑い好きだしさ、立派なコメディアンになつて、病氣の子とか、慰問に行きたい訳よ。

鈴木 病氣の子？

木村 だつてそうだと、コメディアンだつたら、それ慰問とか行かなかやダメだよ。

鈴木 え？そういう事がやりたいの？

木村 あ、お前に良い言葉を教えてやろう、えつとねえ…、風に、

鈴木 なに？

木村 忘れちゃつた。

吉田 で結局はさあ、運たねつて話になつて、お前、今年の初詣で、おみくし引いた？

鈴木 …ああいうのは人に言わない方が良いんだよ。

吉田 あ、そうなの？あ、でも、言つたところで悪くなりよすがないから言つけど、大凶引いちゃつたんだ上俺。で、こいつに聞いたらさ、

木村 俺も大凶なんだよ。

吉田 もう、なんか笑えて来ちゃつてさあ、じゃまあここで一つ、どっちの方が運が良いのか、良かった事目慢でもしようかつて話になつて、でまあ、今までの人生の中で良かった事をずらつと挙げていつたんだけど、これと言つて無いんだよね良い事が。

木村 お互い大凶だからなあ。

吉田 そうか、良かった事を競うつてのがそもそも間違つてたんだ、悪かった事を競えばいいんだつて事になつて、今までの人生の中で悪かつた事をずらつと挙げて行くだけだよ…これといつて無いんだよね。

木村 無いんだよね、これが。

吉田 いやや全く、俺達は今まで何をしてきたんだらうねつて話になつて、じゃあまあ、ここはひとつビデオでも見るかつて事になつて、

鈴木 なんてそうなるかなあ、荷物運んでよ。

吉田 いや、そいでね、たまたま入れたテープがドリフでさ、笑っちゃうんだよね、こんな気分の時でも、やつぱドリフは凄いなあつて。

木村 あ、思い出た。いいか、お前に良い言葉を教えてやろう、人は皆

鈴木 さっきの風は？

木村 泣いてこの世に生を受け、笑つてこの世に別れを告げる、そうありたいものだね。

鈴木 は？

木村 そんな風に生きていたいと思んでいるんだよ皆、だから笑いを生み出す職業についてる人はさあ、少しでもそんな人達の手助けが出来たらいいなあと思つてるんだと思つた、俺はね、どんな小さな芸人だつとさ、尊敬してんだよ、俺も早くあんなりたいなあと思つているんだだけどいかんせん、運がなあ…。

吉田 お前もこつちきてテレビ見ろよ。

鈴木 あーもういらいらする。あんた等さあ、ちよつと表行つて走つて来い。テレビなんか見てるからダメなんだ。

吉田 いいの？そんな事言つて、ドリフ大爆笑だよ。

鈴木 だからなに？あんたは笑つていたいのか？笑わせたいんじゃないの？

吉田 笑わせたいです。

鈴木 そうだが、あんたは？

木村 俺も、笑われないです。

鈴木 笑われないじゃない、笑わせたいでしょ。

木村 ああ、うん。

鈴木 なあ分かつてる？笑われるのと笑わせるのとじゃ全然違つよ意味が。

木村 分かつてるよ。

吉田 …ははははは。

鈴木 あ、大家さん。

吉田 (同じく) ああ、どうもお、お世話になります。

大家さん いやあ、別にお世話しないけど。あれ？鈴木さん、独りで、住むんだよね。

吉田 あ、こいつが、お世話になります。

大家さん ああ、うん、お世話しないから。

木村 いやあ、しかし、お若い大家さんだ。

大家さん そうですかあ？結構いつてるんですけどね。

木村 お幾つなんですか？

大家さん 30です。

皆、笑っておく。

木村 まだ、あるよね。

吉田 あ、うん。

木村 じゃあ、俺行ってくるわ。

吉田 (より笑顔になって) 一緒に行くよ。

木村 (負けじと) いいからいいから、気にしないでいいから。

木村、申し訳なきさそうに出て行く。

吉田 はははは、何を気にしないでいいんだろ。ははは。

大家さん いいですわねえ、なんか。

鈴木 何がですか？

大家さん 引越し手伝ってもらえるお友達がいて。

鈴木 いやあ、お友達っていうのかなっていうか、ははは。

吉田 あ、じゃあ、俺も手伝って来ようかな。

鈴木 一緒に行くよ。

吉田 いいからいいから、気にしないでいいから。

吉田、満面の笑顔で出て行く。

鈴木 ははは、何を気にしないでいいんだか。

大家さん 何か不自由な事があつたらなんなりと言って下さいね。

鈴木 よろしくお願ひします。

大家さん いやいやホントに…、ははは。

気まずい間になり。

鈴木 やつぱり手伝って来ようかな。

大家さん え？

鈴木 まだ、結構あると思うんで。

大家さん あ、じゃあ私も。

鈴木 いいからいいから、気にしないでいいから。

鈴木、満面の笑顔で出て行く。

大家さん 独りにしないでよ！

鈴木 …え？

大家さん いや…、ははは、ほら、なんか、大事な物とか取ってつちやうかもしれないよ。大家さんとは

言え、他人だから。

鈴木 ははは、またまたあ。

鈴木、出て行く。

大家さん、独りぼっちになる。

部屋を見回す。

大家さん まさかあいつら…！

大家さん、懐から護身用ナイフを取り出し、追いつけて行くとする。
と、鈴木含め三人、急いで戻ってきた。

対峙する四人

大家さん、泣きそうな程の笑顔になつて。

大家さん 冗談だから、冗談…、ははは。

つられて三人もそんな笑顔になる。

吉田 大家さんたら、ナイフなんて、ははは。

大家さん ああ、コレ？ははは、お守りい。

木村 随分使い込んでらっしゃるう。

大家さん ひよんな事が必要になるよね、ナイフつて。

鈴木 ひよん？

大家さん ひよん。

吉田 ひよんつてなに？あはははは。

鈴木 ひよんだつて、あはははは。

大家さん ほらほら、ケーキ切つたり、ケーキ切つたり。

吉田 好きなんだケーキ、あははは。

大家さん ケーキ好きい、もう糖尿病で死のうかと思つて、あははは。

木村 じゃあ今日は引越越しケーキかな、あははは。

大家さん、突然半下座して。

大家さん お願いします！出て行かないで下さい！

三人 …。

大家さん はははは、びっくりした？ははは。

鈴木 な…、なに？どうしたの、大家さん。

大家さん 鈴木さんに、言わなきゃいけない事が、あるんです。

鈴木 ま、まあ、顔上げて下さいよ、ははは。

大家さん ははは、ここ満室だつて言つたでしょう。最初会つた時

鈴木 ははは、ええ。

大家さん 実はさあ、アレ嘘なんだよねえ。

鈴木 え？

大家さん からつぽ、誰もいないの、このアパート、ははは。

鈴木 …なんでそんな嘘付いたんですか？

大家さん 出て行かないつて、約束してくれる？

鈴木 いや…、駅前だし、格安だし、ははは。

大家さん 実はねえ…、その、訳有りなんだよねえ、このお部屋

木村 訳有りつて…、良く言う、ああいう事？

大家さん うーん、あははは。

吉田 なになに？何があつたんですか？

大家さん ははははは、首吊り。

吉田 は、ははははは。

鈴木 はははは、何笑つてんの。

木村 お前だつて笑つてんじゃないか。

鈴木 こいつが笑つてるから、ははは。

吉田 だつて、こんなとこで首吊りつて、どこに吊るすの、首、あはははは。

大家さん いやいや、首吊りをバカにしちゃいけませんよお。なんてことないんですから、首吊りなんて

座つてたつて出来ちゃうらしいんですから。例えば、そのドアノブなんかでも。

吉田 あははは、参つたな、首吊り。

鈴木 大家さん、大丈夫ですよ。私、そういうの全く信じてないから。

大家さん ホント？出て行かない？

木村 行きませんよ。

大家さん あれ？鈴木さんが、住むんですよ。

木村 こいつは。

大家さん 良かったあ。

吉田 最近だねえ。

鈴木 爆笑王なんてコメディアン、聞いた事無いけど。

大家さん それ以来変な事が起こるってんで、入っても皆すぐ出てっちゃうんです。駅前で格安なのに。

仲介業者さんにも、早々に契約切れられました。はは、困ったもんです、はははは。

木村 爆笑王ねえ…。

大家さん あなた方つき合ってるんですか？

木村 …え？

鈴木 な、何を言い出すんですか、あははははは。

大家さん あ、違いましたか、すみません。

鈴木 もう、やだなあ、なあ？ははは。

吉田 ?ははは。

木村 ごめん、吉田。

吉田 何が？

木村 ごめん。

鈴木 おい。

木村 やっぱりこいつには話しておいた方がいいだろう。

鈴木 別に今じゃなくなってる。

木村 いつまでも騙し通せるものじゃない。

吉田 (半笑い) なになに？何言ってるんのお前等。

木村 吉田…。

鈴木 いいって言うてんでしょ！

木村 なんだだ？お前、こいつの事が好きなのか？

鈴木 そう言う事言ってるんじゃない。

木村 俺達3人の関係は、こんな事くらいで壊れるようなものなのか？

鈴木 …。

吉田 おいおい、なに言ってるんだよ。

木村 俺達、付き合ってるんだ。

吉田 は…、ははは、付き合ってるって…、え？

木村 こいつ、女なんだよ。

吉田 …は？

鈴木 ごめん。

吉田 …あつはつはつはつは！バカな事言ってるんじゃないやねえよ。またお前等俺をほめようとしやがって。ど

つかにカメラあるんだあ？どこの野郎、あはははは。

大家さん ふ…ふ…ふ…あはははは。あ、すみません、知らなかったんですか、あははは。

吉田 …へ？

大家さん いや、だって契約書に書いてあるから。しかし、まさかこれが女かよって、ええ？！つては

ははは。

鈴木 (大家さんを睨み付ける) ははははは。

吉田 はは…、嘘だろ？

鈴木 …はははは、ごめんな。

吉田 いつから？

鈴木 いつからって、ははは、別に性転換した訳じゃないから。

木村 生まれた時から決まってるんだろ！あははははは！

大家さん 失礼だな君い。

吉田 女かよお、あはははは。全然知らなかったよ俺。はははは。

鈴木 そうだよね。

吉田 で、なに？(半笑い) つき合ってるの？

鈴木 (半笑い) うん。

吉田 何笑ってるんだよ、笑ってる事な事なのかよ。

鈴木 あんたが笑ってるからさ、ははは。

吉田 だって俺、今まで騙されてたって事だぞ、ははは。

鈴木 騙してた訳じゃないの。誰も気付いてくれなかっただけ。別に隠してた訳じゃないのに…。ははは。

木村 吉田、わかってくれよ。こんな風に生まれてしまったこいつの気持ちもさ、ははは。

鈴木 (木村を睨み付けながら) あははははははは。

吉田 お前はいつから知ってたんだ？

木村 相撲コント。

吉田 …つはははは！なんだよ言ってくれよ。なんで言ってくれなかったんだよ水臭い。ははは。

鈴木 ははは、だから別に隠してた訳じゃ…。

吉田 そっじゃなくて付き合ってる事をさ、ははは。

鈴木 ははは、ごめん。

木村 ははは。

吉田 ははは、そっかそっか、そうやってずっと、お郎等二人で、俺を笑い物にして、ははは。

木村 ははは。

鈴木 ははは。

吉田 笑い事じゃねえって言うてんだろ！

大家さん あはははははは！もしかして、君も彼の事？いや、彼女の事？

吉田 …ははは。

大家さん はははははははははははは！！

吉田 …。

木村 吉田、悪いけどそう簡単にくれてやる訳にはいかない。どっちが面白いかで勝負しよう。

鈴木 ちょっと待ってよ、私の気持ちは？

木村 お前は面白い方についていけ、その方がお前の為だ。

鈴木 …。

吉田 俺、帰るわ。

木村 逃げるのか、吉田？

吉田 俺達三人の中で一番面白いのは、こいつなんだよ。

鈴木 吉田…。

吉田 幸せにな。

大家さん 吉田君！吉田君、ちょっと待ちなよ。考え直した方がいいよ、吉田君。三人組ってのはね、一人だけ面白いって事は無いんだよ。三人居るから面白いんだよ。だん三兄弟だつて三つでしょう。信

号だつてそつだ。吉田君、3人の方が絶対良いよ。きつと売れるよ。良い感じだよ君達。面白いもの。考

え直した方がいいって。女なんかたくさんいるんだしき、こんなの女じゃないよ。もつたないよ吉

田君は。

木村 …大家さんたら、ははは。

鈴木 ははは…。

大家さん 面白い！私が断言する！君達は、面白い！

吉田 大家さんに断言されてもな、ははは。

大家さん だつて、笑いが止まらないよ。ははは。

吉田 ははは…、面白いつてさ、ははは。

鈴木 うん、ははは。

木村 ははは…、まさか、大家さんに助けられるとはなあ。

大家さん 私ね、3人組って大好きなんですよ、幼稚園でタチョウ倶楽部。小学校に入ってネプチューン

ね、森三中ね。ヒップアップとか赤信号は名前しか知らないや。今だとなんだ、東京〇三にパンサー？

後はなんだ、最近テレビ見ないからな。たくさんいるんだよね。

鈴木 そっか、大家さんも同じ年だもんね。

大家さん え？皆さんどうそなんですか？58年生まれ？なんだあ、タメかよお。ははは。

木村 参っちゃうよなあ、片やお笑い貧乏3人組で、片やアパートの大家さんでしょお。笑っちゃうよ、

はははは。

大家さん ははは、親父のアパート貰ったただけだから。でつかいお荷物貰っちゃったなって、今じゃ維持

するだけで大変なんだから。ははは、そっかそっかタメか、ははは。

いつのまにか鈴木と木村が腕を組んでいる。

吉田 ひゅうひゅう、熱いねお二人さん。

鈴木 もつ。

木村 てへへ。

大家さん、また土下座して。

大家さん 頼む！俺も仲間に加えてくれ！

木村 はは…、どうしたんですか、大家さん。

大家さん 大家でいいよ、タメなんだから。

吉田 大家！

大家さん 頼むよ、入れてよ。

鈴木 このアパートどうすんの。

大家さん 俺達が売れたら、さつさと取り壊してマンションにするさ。

吉田 …。

大家さん …。

大家さん …。

木村 もう入った気でいるよ、この大家め。

大家さん 頼む！入れてくれい。あんたら見てるとき、なんか気持ち良いんだ。一緒にいたいんだ。

吉田 寂しがりやかよ。

大家さん そうなんだ。ホントは友達欲しただけだ。友達になってくれ！

鈴木 はつきり言われちゃった……。どうする？

吉田 お前がリーダーなんだから。

鈴木 え？私、リーダーなの？

吉田 さっき決まっただろうが。

大家さん 俺だつてさ、笑つて死にたいんだ、ははは。なんかこのままじゃ寂しくつてさあ。

吉田 ……何言つてんだよ、まだ30じゃないか。

大家さん 生まれてこの方全然好きな事なんかなかったし、今年のおみくじも、大凶だったし。

鈴木 ……よしわかった、入れてあげる。その代わりに大家、ここの家賃タダにして。

大家さん くわい、そう来たかこのアマ。

吉田 どうなんだよ大家！

大家さん はははは…、頑張ります！よろしくお願ひします！

木村 大家の大好きな3人組じゃなくなるけど？

大家さん ああ、あのね、4人組も好きなの。ずうとるびでしょ、あとは、知らないけど。

吉田 いい加減だなあ、大家！

木村 大家！

鈴木 大家！

大家さん ははは、よろしくう、よろしくう。

皆 肩を組んで笑う。どうやら大家さんはメンバーに認められたようである。
と、突然テレビが付いた。

木村 わーなんか勝手に付いた。

鈴木 あははは、ホントだ。

大家さん あ、言い忘れてたけどね、ここね、よくいう事あるんだつてさ。

吉田 なになに？これも爆笑王の仕業？

大家さん 多分ね。がはははは。

木村 うそお！がはははは。こえー！

吉田 こえーよ、腹いてえー、だはははは。

鈴木 うわー、何コレ？手赤い！なんか付いてる！あはははははは！

鈴木 手の平を見せる。真っ赤になっている。

大家さん え？血？それ血い？

鈴木 わ、わかんない！がははははは！

吉田 爆笑王だ！だははははは！

鈴木 爆笑王爆笑王！

鈴木 手の平を掲げて皆を追っかけ回す。

木村 おい、なんだよこれ！

木村 段ボール箱の一つをひっくり返す。
真っ赤な手の痕が付いている。

鈴木 いや触つてない。私じゃない。

大家さん 爆笑王ですよ、爆笑王！がはははは。

大家さん 長いロープを取り出し、先程のナイフで4等分する。
「ひょん」 っって言つて。

吉田 じゃあこれなに？

吉田 別の箱をひっくり返す。

こつちにも赤い手の痕が付いているが、めちやくちやでかい。

鈴木 てっか！わはははは！でかいよ、この手。絶対私じゃない。

大家さん 爆笑王の手ですよ、わははは。

木村 これ見て、これ！

木村、さらに箱をひっくり返す。

そこには、真つ赤な液体で描かれた…、

吉田 こ、こわー！いや、恐くない！これ、ピカチュウ！だはははは！

大家さん 爆笑王の絵ですよ、絵！

大家さん、切ったロープを3人に渡して行く。

木村 大家！他には？他にはどんな事が起るんだ！

大家さん 夜中になると、

木村 夜中になると？

大家さん 勝手にテレビが消えたり。

テレビ、消える。

鈴木 わ！消えた！わはははは。

大家さん 勝手にテレビが付いたり。

テレビ、付く。

吉田 付いた！テレビ付いた！わはははは。

大家さん また消えたり。

テレビ、消える。

鈴木 消えました！

大家さん でまたテレビが、

木村 テレビはつかじゃねえか！他にはねえのかよ！がはははは！

大家さん 爆笑王の考える事だから、がはははは！

吉田 こえー、こえーよ、爆笑王！だはははは！

鈴木 大家！こんなと絶対家賃払わないからな！

4人同時に首にロープを巻き付ける。

大家さん もう、いいっすよ。家賃いらぬ。居てくれさえすればそれだけで

それをグイッと引く。

皆 ……………。

空はやがて夕方のそれになり、カラスが鳴く。

電球は独りで消え、

このボロアパートの部屋の中、

テレビだけが付いている。

〜終〜

【上演記録】 2004年2月 長久手市文化の家 風のホール〔劇王Ⅱ〕

2014年6月19日～22日 ひまわりホール〔オイスターズプロデュース公演〕

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」どうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

theatrical unit oysters@yahoo.co.jp